

沖縄戦資料A

牛島 満と沖縄戦

牛島 貞満

年 組名前

1. 沖縄県平和公園内にある平和の礎の2人の名前と鉄の暴風

- (1) 屋宜 和子さん (沖縄県 当時0歳 お母さんは安里要江さん
で4歳の兄がいた)
- (2) 牛島 満 (鹿児島県 当時57歳 沖縄守備隊(第32軍)の司令官)
- (3) 『戦場ぬ童』(1985年制作。米軍の撮影した映像を編集)から
「鉄の暴風雨」とは? 花火と砲弾 何が違う?



2. 住民から見た沖縄戦

- (1) 屋宜 和子さんのたどった運命

安里要江さんの沖縄戦体験

(1945年4月当時25歳、和子さん・6か月と宜秀さん・4歳の母親)
証言①「米軍の捕虜になると、女は暴行を受け、子どもは股裂きをされ、
男は戦車に下敷きにされる」と教えられていたが、間違っていた。
証言②沖縄戦が始まって、日本軍は住民を守らなかった。



- (2) 牛島満はどんな人

- ① 国吉 永啓さん (真和志・楚辺国民学校1年当時6歳) 自分の家を
司令官宿舎に接収された。その後も同じ敷地の中に住んでいたの
で、よく牛島に遊んでもらった。
- ② 宮城 喜久子さん (ひめゆり学徒隊 当時16歳・津嘉山の
経理部壕に配属され、牛島に壕の中で会い声をかけられた。)
- ③ 家族にとっては
- ④ 司令官の役目



安里 要江さん

- (3) 大本営と沖縄守備隊(第32軍)の沖縄戦の方針

「持久戦＝皇土(本土)の防波堤
＝本土決戦準備の時間かせぎ」

- ① 東京都皇居から長野県松代に大本営を移すために巨大な地下
壕を掘り、天皇、皇族の住居、宮内省、政府、大本営・陸海軍部、NHKなどを移転するための工事
- ② 鹿児島・東京湾沿岸要塞(千葉県館山等)の建設、各地の本土決戦に向けた基地作り

- (2) 第32軍司令官 牛島満はどんな人?



家族にとって

- ① 子ども好き
- ② 怒らず優しい
- ③ お酒が弱く、料理が好き

軍司令官の役目

- ① 作戦を決定する
- ② 戦争を始める
- ③ 戦争を終わらせる

本土決戦の準備



大本営と第32軍の作戦



3. 日本軍(沖縄守備隊・第32軍)の2つの命令と住民被害

(0) 矛盾する大本営の命令

- ・4月1日米軍は、沖縄島読谷海岸に上陸
その日に北(読谷)・中(嘉手納)飛行場を占拠
- ・第32軍には、大本営からの作戦変更指示 持久戦⇒攻勢
- ・第32軍:攻勢大失敗⇒兵力の2/3を失い⇒「持久戦」
大本営:攻勢の命令は変えず「攻勢」のまま

(1) 5月22日首里司令部での作戦会議

4/8、5/4の日本軍(第32軍)攻勢により、兵力の2/3(約6万4000人死亡)を失った。米軍の死者・行方不明者は約5000人
沖縄戦が始まって約50日、米軍は、司令部のある首里城の近くまで迫った。

問題:自分だったら、どちらの作戦をとるか(第1の命令)

- ①首里でそのまま戦う
 - ②南部に下がって戦う(南部撤退)
- 理由「」

第32軍が実際にとった作戦は「」(第1の命令)

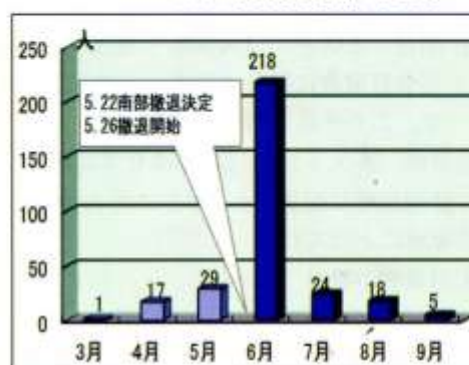
※当時の状況を踏まえ、他の選択はできなかったのか?

[]



1945年 長嶺小校区での月別死者数

2004年長嶺小学校6年生調べ



(2) 6月18日摩文仁司令部での作戦命令

問題:「最後まで敢闘し、悠久の大義に生くべし」(第2の命令)で沖縄戦が終わったのはいつか?

- ①6月22日または23日(牛島満の命日、沖縄県慰霊の日)
- ②8月15日(大日本帝国がポツダム宣言を受け入れたことを天皇が国民にラジオ発表した日)
- ③8月15日より後

沖縄戦で、日本軍(第32軍)が、軍隊として戦闘を終えたのは「」月「」日

4. 沖縄県の小学6年生の祖父母からの戦争体験の聞き取り

5. まとめ 今、沖縄戦から何を学び、何を伝えるか?

